

芸術は私にとって癒しである。

私は幼い頃に絵画教室に通っていた。ただひたすら楽しく、自分をのびのびと解放できるような時間を過ごしていた。それがあって、私の中には、つらさを乗り越える手段に「芸術」という選択肢が生まれた。そのように芸術が癒しとなり得ることを、誰かに、できれば子どものころに伝えられたらいいなと思っているところで、芸術士を知った。

インターンシップでは、子どものような大人が、子どもの日常に存在することの重要性を学んだ。

芸術士は変な大人である。園の先生が怒りそうなこと（部屋の中で水遊び・水溜りでスライム作り等）をしようとするし、園の先生のようにいつも安全な道を提示してくれるのではなく、あえて不完全な計画を立て、子どもと一緒にうねうねと考え続ける。いつも、子どもと同じ視点に立っている。

保育者は安全な環境を作ることや、きっちりと先手を打った計画を立て、それに則った動き方をすることが求められる。それに対して芸術士は、「片付けのときに遊び出す子を見守りたい」「スムーズにいけばいいわけじゃない。無駄もあるけど、それがいい」などとおっしゃっていた。私は大学で保育の勉強をしているから、保育者の考え方がどれほど大切か、理解できる。しかし、子どもの主体性に重点を置く芸術士の考え方のほうが、ものすごくワクワクする。

そんな芸術士は、子どもの日常に溶け込んでいた。芸術士と子どもたちは、プール遊びや昼食の時間も一緒に過ごす、日常的につながりを持つ関係であった。

芸術を通してワクワクできる時間が日常的にあったら、どれほど芸術を身近に感じ、芸術のことを好きになれるだろうか。芸術士と過ごした子どもたちにはきっと、「芸術は楽しいもの」という認識が根強く残るのだろう。

芸術は私にとって癒しである。誰にとっても、芸術は癒しとなり得る。芸術士は、その癒しの種を植えるような、大変素敵な職業なのだと分かった。

インターンシップ生 寺島ころろ

2023

8月25日(金)

西植田保育所

芸術士インターンシップ

寺島こころ

木ってどんなかな？

手ってどんなかな？



▲真剣にお絵描き。どんどん長く伸びてゆく…

クレヨンで木を描いてみる。他にも好きなもの、何でも描いてオッケー！

ながーい木をつらつら繋げていく子も、おっきい葉っぱをドーンと描く子もいた。時計や迷路、ハートをたっくさん描いたりもしてた。他の人の絵を見たとき、「すごいから」ってすぐに真似をするのではなく、お互いが描きたいものをコラボレーションしてどんどん広げていく姿から、「あなたもいいね。私もいいね」というお互いを尊重し合う関係性が見えた気がした。



▲目の前に絵の具が撒かれると、「わっ！！！」って顔に。



▲素晴らしい思い切り！

▼ローラーのでこぼこで模様をつける。



▲上の方から埋めていって、
からだ汚れないように。



▲他のだれかのスペースも、気づいたらワクワクで埋まってる！



▲ひとつひとつ丁寧に絵の具をつけて、丁寧に押してる。

クレヨンで描いた絵の上に、絵の具を広げていく。黒い絵の具を広げると灰色になって、「ねずみさんの色だー！」だなんて。

次は手形をスタンプしていく。「手形」と言われると私はパーを想像するけど、子どもたちはグーとかチョキとかスタンプする。なるほどその手があるのか！と驚かされてばかり。単純なパーでもふたつ並べてちょうちょに見立てたりしてて、子どもは本当に遊びのプロだなーと思った。そうこうしているといつの間にか、子ども同士で色の交換が始まった！その自主性、とってもステキだね。

「木をクレヨンで描こう」「絵の具を広げよう」「手形をスタンプしよう」というシンプルな条件の中で、こんなにも発想が広がるなんて！決まりがあるからこそ、みんなのこだわりがよく発揮できた1日だった。

芸術士インターンシップに参加することで、子どもにとって自由な活動は大変意義のあるものだと知ることができました。もちろん活動のテーマや使う道具は芸術士の方が用意したものを使用していますが、それをどう扱うかは子どもたちの自由で、子どもたちは自分の想像や発想をもとに活動を楽しんでいたように思います。芸術士の方々も子どもに逐一指示するのではなく、一緒に楽しんだり子どもに合わせたサポートを行うなど、子ども主体が損なわれないよう意識していました。

また、芸術士は単発のワークショップと違い継続した活動を行うので、子どもたちは前回出来たから今回もできると思える等、活動を通して自信や粘り強さを獲得しているようでした。

芸術士の活動はまだ知名度が低いと思いますが、もっと多くの人がこの活動を知り、子どもたちに芸術の自由さ、楽しさを体験させてあげられるようになれば、子どもたちはもっと自分に自信を持ったり、粘り強く挑戦する楽しさを知ったりすることが出来ると思います。

今回は、このような価値のあるインターンに参加させていただき有難うございました。

インターンシップ生 十亀純

スライム大実験

「洗濯のり」と「洗剤」でスライムを作る実験をしました。
子どもたちは粘り強く、30分も混ぜ続けてくれましたが
スライムにはならず……。
ホウ砂を入れることで一瞬で固まりました！！！！
最後は好きな色をつけて、自分だけのスライムが完成！

2023年8月25日

『芸術士インターンシップ 十亀純』

社会福祉法人みどり福祉会 若葉保育園

